

インフラツーリズム魅力倍増プロジェクト 新たなモデル地区の選定について



- 1. これまでのモデル地区の概要**
- 2. モデル地区の追加選定候補**
- 3. モデル地区の追加選定(案)**

1. これまでのモデル地区の概要

なるこ
①鳴子ダム【宮城県大崎市】

- ・日本人の技術者により造られた日本初のアーチダムで選奨土木遺産
- ・周辺には温泉、名勝、史跡等があり、農業遺産である大崎耕土も含めた流域連携モデル



やんば
②ハツ場ダム

- 【群馬県吾妻郡長野原町】
- ・建設中ダムでの多彩な見学ツアー（やんばツアーズ）を開催
 - ・建設段階から管理段階への移行モデル



あまがせ
③天ヶ瀬ダム【京都府宇治市】

- ・宇治市街地に近接
- ・立地を活かし、DMOと連携したツアー造成、淀川水系支流の高山ダムとの組み合わせなど広域連携モデル



くるしま
④来島海峡大橋 他
【愛媛県今治市】

- ・しまなみ海道上の世界初の三連吊り橋であり、塔頂体験ツアーを開催
- ・先行実施している明石海峡大橋のノウハウも取り入れ、長大橋のモデル



つるた
⑤鶴田ダム

- 【鹿児島県薩摩郡さつま町】
- ・九州最大の重力式コンクリートダムで水位低下時には明治期の発電所遺構が出現
 - ・霧島連山や桜島等の広域周遊モデル



はくちょう
⑥白鳥大橋【北海道室蘭市】

- ・1998年に完成した東日本最大の吊り橋で、寒冷地における国管理の長大橋
- ・令和2年7月12日開業の民族共生象徴空間「ウポポイ」や登別温泉、クルーズが人気を集める室蘭港等との地域連携周遊モデル



くさかがわ
⑦日下川新規放水路

- 【高知県高岡郡日高村】
- ・日本最長級(5.3km)かつ高度な技術が必要とする水路トンネルを現在工事中
 - ・仁淀ブルー等の観光資源との連携を進めるとともに、工事現場の見学を通して、放水路、調整池等のインフラ施設と水害の関わり、歴史を紹介・学習する工事段階から管理段階への移行モデル。



1. これまでのモデル地区の概要

[これまでのモデル地区の位置図]

The diagram features a map of Japan with several callout boxes and photographs. The callouts are as follows:

- 白鳥大橋** (Shiratorizaki Bridge): A black-bordered box with a line pointing to a photograph of a large suspension bridge over a bay.
- 来島海峡大橋** (Kushima Strait Bridge): A black-bordered box with a line pointing to a photograph of a tall, white suspension bridge over a blue sea.
- 鶴田ダム** (Tsuruta Dam): A red-bordered box with a line pointing to a photograph of a dam with large concrete blocks and workers.
- 日下川新規放水路** (Nishikawa New Release Channel): A red-bordered box with a line pointing to an aerial photograph of a river channel with a red line indicating the new release path.
- 天ヶ瀬ダム** (Amagase Dam): A red-bordered box with a line pointing to a photograph of workers in hard hats near a dam structure.
- 鳴子ダム** (Nagasaki Dam): A black-bordered box with a line pointing to a photograph of a dam with water cascading over its spillway.
- ハツ場ダム** (Hatsubaru Dam): A black-bordered box with a line pointing to a photograph of a group of people standing on a concrete structure, likely a dam.

2. 新たなモデル地区の選定について

- 令和5年度より、新たにモデル地区を追加する。
- 国管理施設等を対象に、各施設管理者からモデル地区の追加選定候補として推薦。

〔モデル地区を選定するにあたっての視点〕

- ・多様な分野のインフラ施設から選定（なるべくダムや橋以外で）
 - インフラの種類による仕組みの違いを検証
- ・周辺観光資源との連携が見込まれる取組を選定（集客性、収益性）
 - インフラ自体の磨き上げとともに、周辺の観光コンテンツと連携する事例
- ・多様な段階の取組から選定（更なるレベルアップを図る地区、これから取組を推進する地区）
 - 見学機会の更なる拡大や持続的な取り組みにつなげる事例
 - 既存事例の知見を展開する機会となる事例

2. 新たなモデル地区の選定について

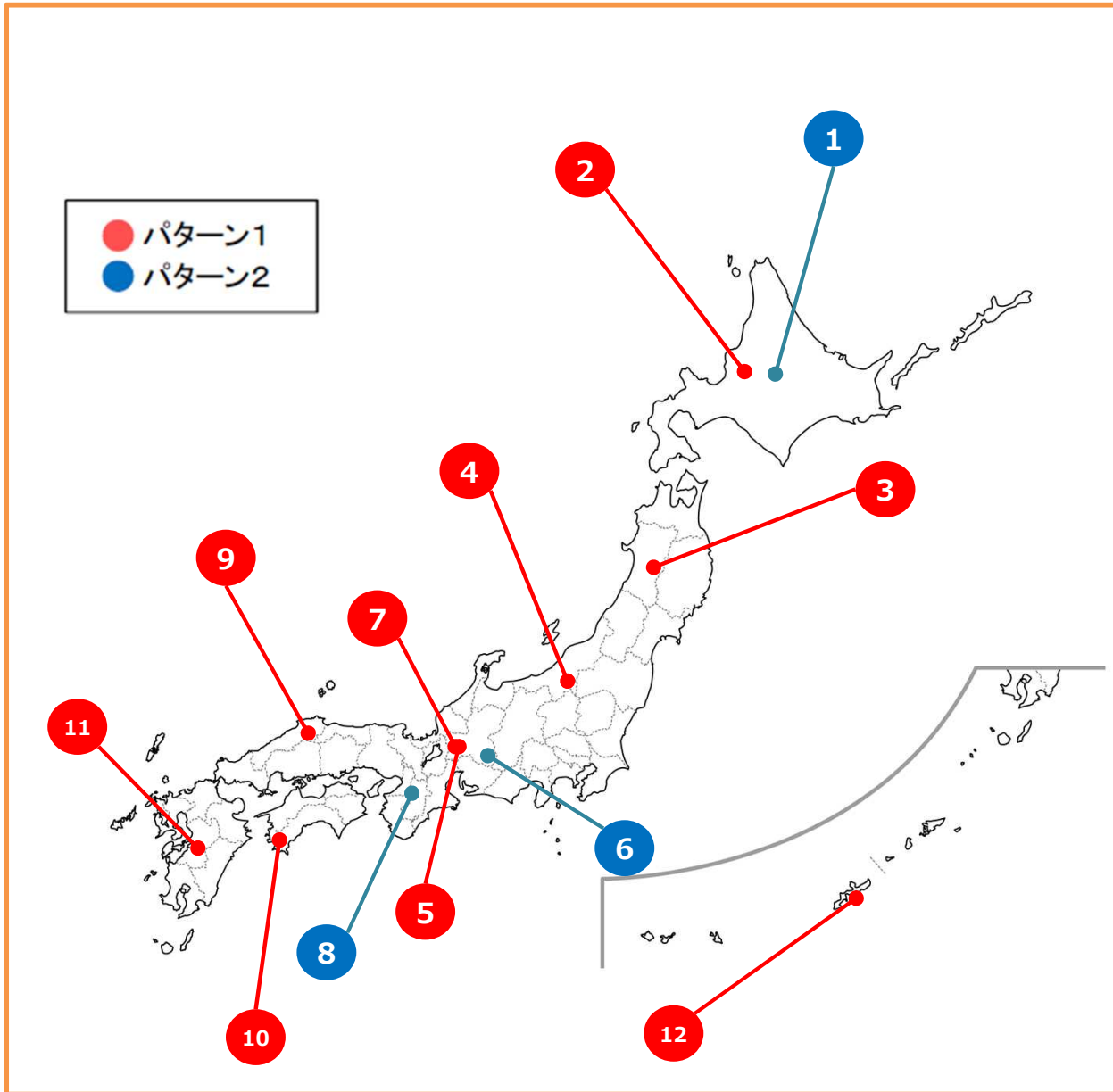
- 引き続き、モデル地区として検討する3箇所に加え、新たにモデル地区を追加する。
- 直轄管理施設及び会社管理施設を対象に、各施設管理者からモデル候補地区として12施設の推薦。
- 「パターン1:これから推進していく施設」と、「パターン2:更なるレベルアップを図る施設」の2パターンにて候補地区を整理。

〔モデル地区の類型〕

パターン	内容
パターン1 (これから推進していく施設)	<ul style="list-style-type: none">・施設管理者と周辺地域(自治体、協議会、地元NPO等)が連携した取り組みが準備されていること。・施設管理者及び周辺地域について、今後2年間で連携を本格化させ、一定程度の来訪者(年間1,000人以上)を目指す意識が明確であること。
パターン2 (更なるレベルアップを図る施設)	<ul style="list-style-type: none">・既にインフラツーリズムの活動が進んでおり、現時点で一定程度の来訪者(年間1,000人以上)があり、施設管理者と周辺地域が連携した協議会等が設置、運営されていること。・既にインバウンド(年間100人以上)があり、施設管理者及び周辺地域において、今後1年間でさらにインバウンドの拡大を目指す意識が明確であること。

2. モデル候補の追加選定候補

〔追加モデル候補地区の位置図〕



モデル候補地区のインフラ施設		
	施設	パターン
1	<small>びえいがわ</small> 青い池(美瑛川ブロック堰堤)と 十勝岳火山砂防情報センター	2
2	<small>すながわ</small> 砂川遊水地	1
3	<small>みずさわ</small> 水沢第2砂防堰堤(砂防ダム)	1
4	<small>だいげんた がわ</small> 大源太川第1号砂防堰堤	1
5	<small>とうかい かんじょう</small> 東海環状自動車道(西回り)	1
6	<small>おりがわ</small> 小里川ダム	2
7	<small>えつみ さんけい</small> 越美山系砂防事務所(砂防資料館)	1
8	<small>かめ せ</small> 亀の瀬地すべり対策	2
9	<small>おぼら</small> 尾原ダム	1
10	<small>よこぜがわ</small> 横瀬川ダム	1
11	<small>たての</small> 立野ダム	1
12	<small>きん</small> 金武ダム	1

3. モデル地区の追加選定(案) – 各候補地区の評価(案)① –

◎: 体制づくりやツアー実施等の取組が特に期待できる ○: 体制づくりやツアー実施等の取組が期待できる

	施設	パターン	既存の活用しうる組織	今後の連携団体等	既存の見学内容	取組方針・連携の可能性
1 (北海道)	青い池(美瑛川ブロック堰堤)と十勝岳火山砂防情報センター	2	◎ ・十勝岳ジオパーク推進協議会	○ ・一般社団法人美瑛町観光協会 ・有限会社美瑛物産公社	◎ ・青い池のライトアップ ・青い池と火山砂防情報センターの公共見学ツアー 青い池来場者: 870,000人、 十勝岳火山砂防情報センター来訪者数: 6,000人	◎ ・見学会で見せている砂防施設をツーリズムとして見せるための検討 ・ ジオパーク、地域のジオガイドとの連携 ・ インバウンドをインフラへと導くためのコンテンツ造成
2 (北海道)	すながわ 砂川遊水地	1	◎ ・オアシスパークからゆめまちづくり協議会	○ ・砂川市インバウンド受入協議会 ・(一社)オアリパ	◎ ・遊水地を活用した各種イベント 来訪者数: 19,828人	○ ・砂川遊水地を含めたインバウンド向け観光コンテンツの造成 ・「稼ぐ観光」を目指した着地型旅行商品の造成
3 (東北)	みずさわ 水沢第2砂防堰堤(砂防ダム)	1	○ ・仙北市	○ ・県立田沢湖スポーツセンター	○ ・砂防堰堤の壁面を利用し設置したボルダリングウォールの一般開放 ・砂防堰堤の出前講座 来訪者数: 700人	○ ・周辺観光施設の周遊と、砂防施設でのボルダリング体験を行う観光ツアー ・砂防施設の紹介も可能なツアーガイドの育成
4 (北陸)	だいげんたがわ 大源太川第1号砂防堰堤	1	◎ ・大源太砂防施設他利活用協議会 ・(一社)湯沢町観光まちづくり機構 ・雪国観光舎 ・湯沢町・南魚沼市・魚沼市自転車活用推進協議会	○ ・大源太砂防施設他利活用協議会 ・(一社)湯沢町観光まちづくり機構 ・雪国観光舎 ・湯沢町・南魚沼市・魚沼市自転車活用推進協議会 (左記と同団体)	◎ ・雪国観光舎による大源太川第1号砂防堰堤とNEXCO所管施設セットのインフラ見学ツアー 来訪者数(周辺施設の入込計): 38,210	◎ ・ 工事中トンネルの地域活性化のための利活用について湯沢町と合意 ・ 雪国観光舎との連携 による周辺観光資源と連携したツアー造成

3. モデル地区の追加選定(案) – 各候補地区の評価(案)② –

◎: 体制づくりやツアー実施等の取組が特に期待できる ○: 体制づくりやツアー実施等の取組が期待できる

	施設	パターン	既存の活用しうる組織	今後の連携団体等	既存の見学内容	取組方針・連携の可能性
5 (中部)	とうかい 東海環状 自動車道 (西回り)	1	◎ ・東海環状西回り利 活用促進会議 ・東海環状地域整備 推進協議会	○ ・観光協会、岐阜バス等の旅行関 係企業	○ ・沿線において道の駅、都市 公園等の観光拠点が整備さ れており、個別に観光活性 化の取り組みが進められて いる	○ ・周辺観光資源と連携したツアーの中で、東 海環状自動車道のストック効果の紹介や 工事状況の見学等を実施
6 (中部)	おりがわ 小里川 ダム	2	◎ ・いやす里づくりの会 ・里山教室	○ ・矢作ダム・丸山ダム・阿木川ダム ・道の駅おばあちゃん市・山岡、大 正村浪漫亭、山岡駅かてんかん	◎ ・ダム貯水池を活用した各種 イベント 来訪者数: 40,973人	○ ・国、機構が直轄で管理する、小里川ダム周 辺の矢作ダム、丸山ダム、阿木川ダムの4 ダムを回るインフラツアー ・貯蔵酒等の既存商品のコラボレーション企 画 ・地域と連携した商品開発
7 (中部)	えつみ さんけい 越美山系 砂防事務 所(砂防 資料館)	1	—	○ ・NPO法人大垣観光協会(西美濃 DMO) ・大垣市、本巣市、揖斐川町 ・徳山ダム管理所、横山ダム管理 支所 ・道の駅指定管理者 等	○ ・砂防堰堤: 砂防施設を見学 ・徳山ダム: ダムサイト公園、 水と森の学習館を一般開放 ・横山ダム: ダム内部の見学 (来訪者数) ・砂防施設: 1,000人 ・徳山ダム: 183,000人 ・横山ダム: 5,000人	○ ・砂防堰堤、徳山ダム、横山ダムなど、 大規模な施設を巡るツアー ・地域連携DMOとの連携
8 (近畿)	かめ せ 亀の瀬 地すべり 対策	2	◎ ・日本遺産「龍田古 道・亀の瀬」推進協 議会	○ ・公益財団法人 大阪観光局	◎ ・亀の瀬地すべり歴史資料室 ・亀の瀬地すべり対策施設(排 水トンネル工、集水ボーリン グ工等) ・旧大阪鉄道亀瀬隧道を活用 したプロジェクションマッピン グ 来訪者数: 8,000人	◎ ・日本遺産を通じた地域活性化計画(「龍田 古道・亀の瀬」推進協議会)に位置づけ ・ 既存の歴史観光施設を活用したツアー検 討 や、亀の瀬地区における上面利用検討 ・ 見学機会の拡大や恒常化のための専門ガ イドの確保等

3. モデル地区の追加選定(案) – 各候補地区の評価(案)③ –

◎: 体制づくりやツアー実施等の取組が特に期待できる ○: 体制づくりやツアー実施等の取組が期待できる

	施設	パターン	既存の活用しうる組織	今後の連携団体等	既存の見学内容	取組方針・連携の可能性
9 (中国)	おぼら 尾原ダム	1	◎ ・さくらおろち湖活性化ネットワーク会議(NPO法人さくらおろち) ・(一社)雲南市観光協会 ・(一社)奥出雲町観光協会 ・いずもインフラツーリズム戦略会議	○ ・旅行会社	◎ ・展示室、ダム管理施設等を職員が案内 来訪者数: 109,811人(ダム湖並びに周辺観光施設利用者)	○ ・ダムクレストゲートからの点検放流時にクレストゲート点検用通路からの放流見学 ・一般公開していない利水放流設備の見学
10 (四国)	よこぜがわ 横瀬川ダム	1	◎ ・ダム活用調整協議会 ・ダム活元気ネットワーク	○ ・宿毛市観光協会	◎ ・ダム内部の見学 ・日本初のダム壁面クライミング体験 来訪者数: 800人	○ ・湖面利用(SUPなど)可能な環境を創出してのアクティビティ利用のツアー ・ダム建設時の設備を活用した体験型ツアー
11 (沖縄)	きん 金武ダム	1	◎ ・金武ダム水源地域ビジョン推進協議会 ・NPO 雄飛ツーリズムネットワーク	○ ・ふくらしゃや(カヌー体験等アクティビティ) ・ネイチャーみらい館(宿泊施設) ・酒造会社 ・日本旅行業協会(JATA)沖縄支部	○ ・ダム堤体、ダム内部の見学 ・ダム資料館見学 ・国頭方東海道(宿道)の一部復元 来訪者数: 160人	○ ・インフラ施設(ダム)、周辺観光施設及びアクティビティと連携した宿泊を含めたツアーの確立
参考 (九州)	たての 立野ダム	1	◎ ・「阿蘇・立野峡谷」ツーリズム推進協議会	○ ・「阿蘇・立野峡谷」ツーリズム推進協議会(左記と同団体)	◎ ・立野ダム展望所より見学、立野ダム広報室での説明 ・バス等にて立野ダムサイト内へ入り、施工状況、周辺環境(ジオ・柱状節理)の解説など 来訪者数: 704人	◎ ・熊本地震災害・復興ツーリズム ・阿蘇の地形地質から立野ダム建設までの流れを組み込んだジオ・インフラツーリズム ・ジオガイドによる説明、語り部によるガイド等の養成 ・立野ダムインフラツアーと併せた継続的な実施体制の構築及びツアーの実施

3. モデル地区の選定(案)

○視点を踏まえモデル地区を3箇所選定予定

	施設	所在地	施設の現況・特徴	評価のポイント(期待される効果)
1	青い池(美瑛川ブロック堰堤)と十勝岳火山砂防情報センター	北海道 上川郡 美瑛町	<ul style="list-style-type: none"> 青い池は砂防堰堤によりできた人造池であり、地域の防災と関わりがある。 青い池と砂防堰堤、砂防情報センターを組み合わせた見学会を実施している。 青い池そのものが観光スポットとして多くの来訪者がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 青い池からインフラへ導くことにより、防災の意義を伝えるツアーを目指す事例となる。 観光地の特徴をいかし、インバウンド受入の事例として期待される。 地域のガイドとも連携し、地域への波及効果を生む取り組みが期待される。
4	大源太川第1号砂防堰堤	新潟県 南魚沼郡 湯沢町	<ul style="list-style-type: none"> 昭和14年に完成した砂防堰堤で、登録有形文化財、選奨土木遺産。 老朽化に伴う補強工事で用いた仮排水トンネルの利活用について、湯沢町と協議会を発足し検討中。 雪国観光舎が本施設とNEXCO施設を連携させたインフラツアーを実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 施設の見せ方の磨き上げにあたり、見学箇所の開放について、他インフラ事例の知見を展開する機会となる DMOを中心とした新たな観光の取組が推進されており、地域の多様なコンテンツ・プレイヤーの連携により、より地域への波及効果を高める取り組みへの発展が期待される。
8	亀の瀬地すべり対策	大阪府 柏原市 奈良県 生駒郡 三郷町	<ul style="list-style-type: none"> 約60年以上実施してきた大規模な地すべり対策事業。 周辺に龍田大社等の日本遺産があり、日本遺産を通じた地域活性化計画(「龍田古道・亀の瀬」推進協議会)に位置づけ 予約制の見学会を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 周辺の日本遺産などのコンテンツとの連携が期待される。 既存の見学会を持続的な取り組みへと発展させることを目指す事例となる。

青い池(美瑛川ブロック堰堤)と十勝岳火山砂防情報センター



◆施設概要

- 昭和63年12月に十勝岳が噴火した際に火山泥流から美瑛町を防ぐことを目的に、コンクリートブロックによる堰堤が平成元年に完成
- その後、ブロック堰堤に水が溜まり「青い池」が形成
- 十勝岳の噴火をきっかけに、災害に対する警戒を迅速に行うための十勝岳火山砂防情報センターを平成4年に建設し、平常時は防災学習などに使用
- 見学内容:ブロック堰堤によりできた青い池に加え、美瑛川にある砂防堰堤の見学、十勝岳火山砂防情報センターにおける防災学習

◆活動実績例

- 協議体:「十勝岳ジオパーク推進協議会」(美瑛町、上富良野町ほか、51団体)
- 美瑛町による青い池のライトアップ
- 民間観光バス会社による「青い池と十勝岳火山砂防情報センター」の公共見学ツアー
- 年間来訪者数(青い池):87万人

◆ツアー造成に向けた方向性(案)

- 見学会で見せている砂防施設をツーリズムとして見せるための検討
- ジオパーク、地域のジオガイドとの連携
- インバウンドをインフラへと導くためのコンテンツ造成

大源太川第1号砂防堰堤



◆施設概要

- 昭和10年発生した大氾濫を契機に計画され、昭和14年11月に完成した日本でも最初期のアーチ式砂防堰堤のひとつ
- 平成15年に「登録有形文化財」に登録、平成23年に「選奨土木遺産」に認定
- 見学内容:大源太湖(ダム湖)には、希望大橋が架橋され、橋の上から湖面や砂防堰堤上部が見学可能なほか、改築事業で使用した仮排水トンネルを活用し、砂防堰堤下流から堰堤正面を眺望することが可能

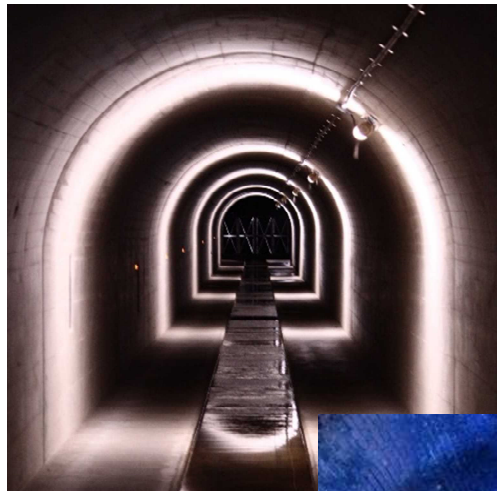
◆活動実績例

- 協議体:大源太砂防設備他利活用協議機会(湯沢町、湯沢砂防事務所)
- 雪国観光舎による、大源太川第1号砂防堰堤とNEXCO所管施設を組み合わせたインフラ見学ツアー
- 年間来訪者数(大源太湖や体験工房、キャンプ場等の周辺施設の入込人数): 約38,000人

◆ツアー造成に向けた方向性(案)

- 改築事業で使用した仮排水トンネルを活用した施設の見せ方の磨き上げ
- 周辺観光資源と連携したツアー造成

亀の瀬地すべり対策



◆施設概要

- 推定移動土塊量約1,500万m³に及ぶ大規模な地すべり土塊の安定化を確保するため、昭和35年から事業を開始し、平成23年に主な対策工事が完成
- 地下水排除のための集水井、排水トンネルや、排土工、深礎工などを組み合わせ、総合的な土木技術で地すべり防止対策を実施
- 平成20年には、明治時代に建設された鉄道トンネルをそのままの状態で見学
- 見学内容: 亀の瀬地すべり歴史資料室、亀の瀬地すべり対策施設(排水トンネル工、集水井ボーリング工等)、旧大阪鐵道亀瀬隧道を活用したプロジェクションマッピング

◆活動実績例

- 協議体: 日本遺産「龍田古道・亀の瀬」推進協議会(柏原市、三郷町、大和川河川事務所ほか、10団体)
- 日本遺産推進協議会による旧大阪鐵道亀瀬隧道のライトアップ、亀の瀬地すべり資料室・排水トンネル等のガイド付きツアー
- 年間来訪者数: 約8,000人

◆ツアー造成に向けた方向性(案)

- 既存の歴史観光施設を活用したツアー検討や、亀の瀬地区における上面利用検討
- 見学機会の拡大や恒常化のための専門ガイドの確保